

仙台近郊根白石における雑木林の利用変遷と現状 Change of forest use and current state of coppice forest in Nenoshiroishi near Sendai

松林 武^{1*}; 鹿野 愛里加²; 内ヶ崎 綾³
MATSUBAYASHI, Takeshi^{1*}; KANO, Arika²; UCHIGASAKI, Aya³

¹ 東北福祉大学, ² 宮城教育大学・研, ³ 東日本旅客鉄道株式会社

¹Tohoku Fukushi University, ²Research Student, Miyagi University of Education, ³East Japan Railway Company

雑木林は、薪や木炭といった燃料供給のために15年から30年周期で繰り返し伐採されてきた。仙台市北西部の根白石において2009-2010年に100俵の木炭を生産するのに要した雑木林面積は約800m²であった。1930年代には、根白石では200,000俵の木炭生産があったので、1年に約1.6km²の雑木林が伐採されていたと計算される。しかし、1950年代後半から1960年代初めに始まる燃料革命後には、伐採面積は急激に減少し、木本個体は大径木化している。近年、根白石の雑木林ではナラ枯れが急速に拡大している。ナラ枯れの理由のひとつに雑木林の大径木化が考えられる。

キーワード: 雑木林, 森林利用, ナラ枯れ, 仙台

Keywords: coppice forest, forest use, mass mortality of oak trees, Sendai